

熊本地震と豪雨災害を体験 し考えた災害の対策と準備

熊本県介護支援専門員協会 会員

熊本県老人福祉施設協議会 理事

特別養護老人ホームヒューマン・ケアこうしの杜 たかばの杜

施設長 土屋 政伸

1

熊本地震を経験して考える災害への準備と対策

2



3



4

熊本地震被災【2016年4月14日】

地震後の町の様子



熊本県庁と厚生労働省
と日本介護支援専門員
協会とのスキームづく
り会議



日本介護支援専門員協会
による全戸訪問調査100
00世帯・876名の全世
帯訪問支援



5



2016年4月14日21時26分（前震）2016年4月16日 1時25分（本震） マグニチュード6.5 最大震度7の地震により、**倒壊した家屋**

6



7



8

嘉島町からの依頼における介護支援専門員による 介護相談所の開設



避難先の子どもや住民の方と一緒に、段ボールベッドとパーテーションづくりをしている様子。

9



避難生活中の人間関係の悩み又は介護の相談、今後ど
お様に生活していくか、ストレス等のいろいろな相談
がありました。

10



やっと入浴が可能になった
ので避難所の住民の方も
一安心、貴重な社会資源
情報のため現場確認

避難生活ではお風呂にも
入れなかった

被災して衣類も不足する中
で着替えもできない。

11



これから、家をどうするか、高齢で年金暮らしでは
目途がたたない。お薬も飲んでいない。医者にもか
かっていない。パンもカップラーメンもあきた、温
かいものが食べたい・・・引っ越そうか？
どんどん増えていく、エコノミック症候群

12



益城町 実態調査 日本介護支援専門員協会と支部による
ニーズ調査の打合せの様子（全国からの応援）

13



日本介護支援専門員協会における在宅及び避難所での実態調査および相談支
援のまとめや課題の解決に向けた打ち合わせ

14



15



16

みどりの館デイサービスにて避難所カフェの様子（認知症ケア指導者の方々と日本介護支援専門員協会・熊本県庁の皆様方との連携）

送迎は、みどりの館の職員の方々が実施



17



カフェに参加してもらい、地震の時の事やこれからの事等避難民同士で話し合ったり、**温かい食べ物**を食べてホットする時間を過ごしたり・・・大変喜んでいただきました。介護福祉士会やDCAIと介護支援専門員協会ボランティア・熊本県・市町村と一緒に取り組んだ様子。

18

仮設住宅カフェのお手伝い（DCA T 介護福祉士会の
介護支援専門員協会や熊本県庁等ボランティア有志の皆
さまで連携）



19

調査に関わってくださった方々
ありがとうございました。

20



これから訪問する場所を再度確認している様子

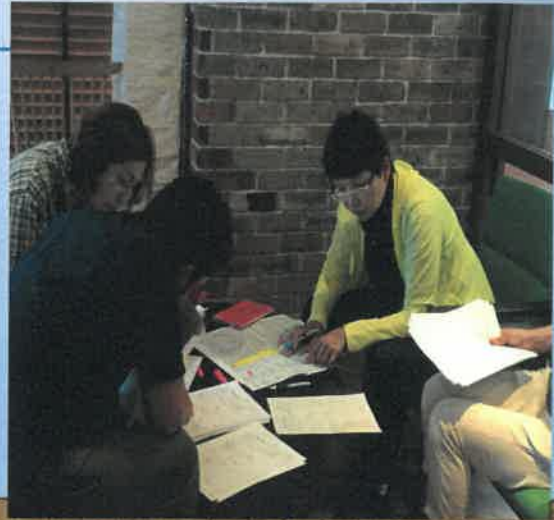
21



訪問調査は2人1組、これから訪問する場所を再度確認している様子

22

益城町在宅訪問ニーズ調査後、報告書の集計をしている様子。



23

塩嶋恭久厚生労働大臣(当時)と共に在宅訪問調査を実施

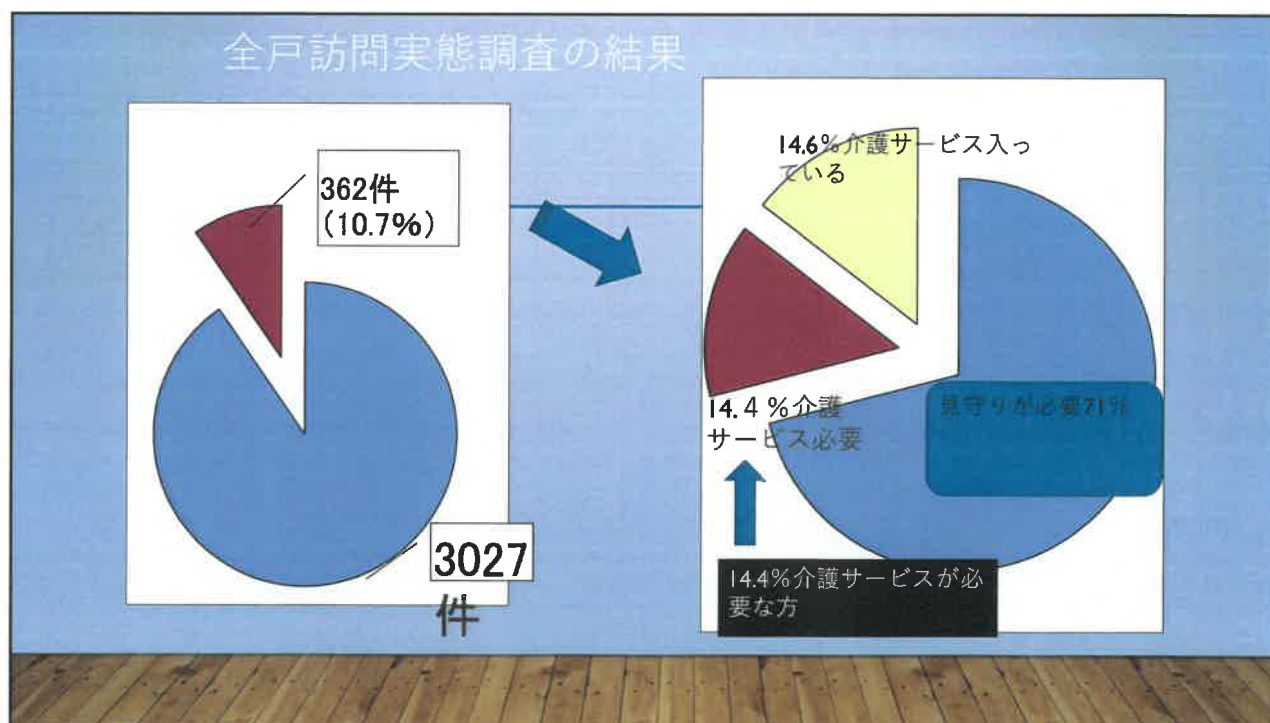
大臣自ら在宅訪問を行い、在宅避難者と対話し、今後要介護状態にならないための介護予防の視点を在宅避難者や介護支援専門員に助言される。(災害時の介護支援専門員の重要性を示唆)



24



25



26

介護支援専門員協会による地域包括支援センター活動支援

- ・御船町より水越地区訪問実態把握 141件
 - ・熊本市南区避難所巡回による実態把握調査 20件
 - ・熊本市中央区地域実態把握調査 訪問 467件 うち聴き取り317件
 - ・西原村在宅被災者巡回訪問 1132件のうち聴き取り568件
 - ・嘉島町避難所相談窓口 相談件数45件
 - ・毎週水曜日「気晴らしカフェ」の支援実施に伴うケアマネ派遣 10名
 - ・益城町在宅全戸訪問(高齢者実態把握) 訪問9788件
うち聴き取り4177件
確認のみ 5844件
- *6月20日より包括と共に、再調査(ニーズ調査)を実施中。上記はその件数も含む
合計 実態把握実施件数 11780件
(うち 実態把握調査及び相談受付対象数 5447件)

27

介護保険事業者活動支援

南阿蘇認定調査支援 13件 御船町認定調査支援 24件

2)その他の活動

- ・益城町総合相談所へのケアマネ派遣 6月20日より
 - ・地域包括支援センター現状確認及びニーズ調査 14件
 - ・居宅介護支援事業所訪問 9件
 - ・老人福祉施設訪問 10件
 - ・県及び関係団体などとの会合 21件
 - ・居宅介護支援事業所等への説明会及び意見交換会
 - ・厚生労働省からの通知関係(被災地通知対象の)解釈説明後、現地ケアマネからの質疑応答、現状報告、意見交換、2回実施
 - ・4月24日 御船町 参会者 保険者3名 14事業所 説明者:日本協会 鷺見会長・笠松常任理事
 - ・5月 9日 益城町 参加者 居宅18名 保険者2名 包括2名 説明者:日本協会 助川常任理事
- 3)支援ケアマネの人数 延べ 825名

28

水害の対応から学ぶ災害への準備と対策

29

- **熊本北部豪雨災害**
 - ・ 2012年7月11日～24日にかけて
 - ・ 全半壊183 床上浸水2011戸 床下浸水789戸
- **熊本地震**
 - ・ 2016年4月14日～16日
 - ・ 3日間で6弱～震度7の地震が7回発生 死者272名 負傷者2808名
 - ・ 避難者183882名 建物全壊 8668戸(内閣府非常災害対策本部)

熊本豪雨災害

2020年7月4日

全半壊606棟 5686戸床上浸水 8月3日時点 避難者727世帯

1408人 創造的復興（地域の特性に応じた対策を）

農地・漁業・補助金・川辺川ダムがあった場合の検証

医療・福祉→コロナ禍

30

熊本地震

31

皆さんの町で、夜間豪雨。前日からニュースで報道がされています。皆さんならどうしますか？

1. 自宅の家族が心配、仕事は後家を守ろう。
2. 仕事場に出かけ、施設、利用者の安否確認
3. 避難所を探して、家族みんなで避難しよう
4. 雨や河川の状況を見てそれから判断しよう
5. 雨が降っても、自分が住んでいるところは水害になったことがないので、大丈夫、余裕
6. 今まで何もなかったから。困ったら誰かが・行政が助けてくれるだろう。朝まで待とう！

32

熊本豪雨災害

33



34



35



36



37



38



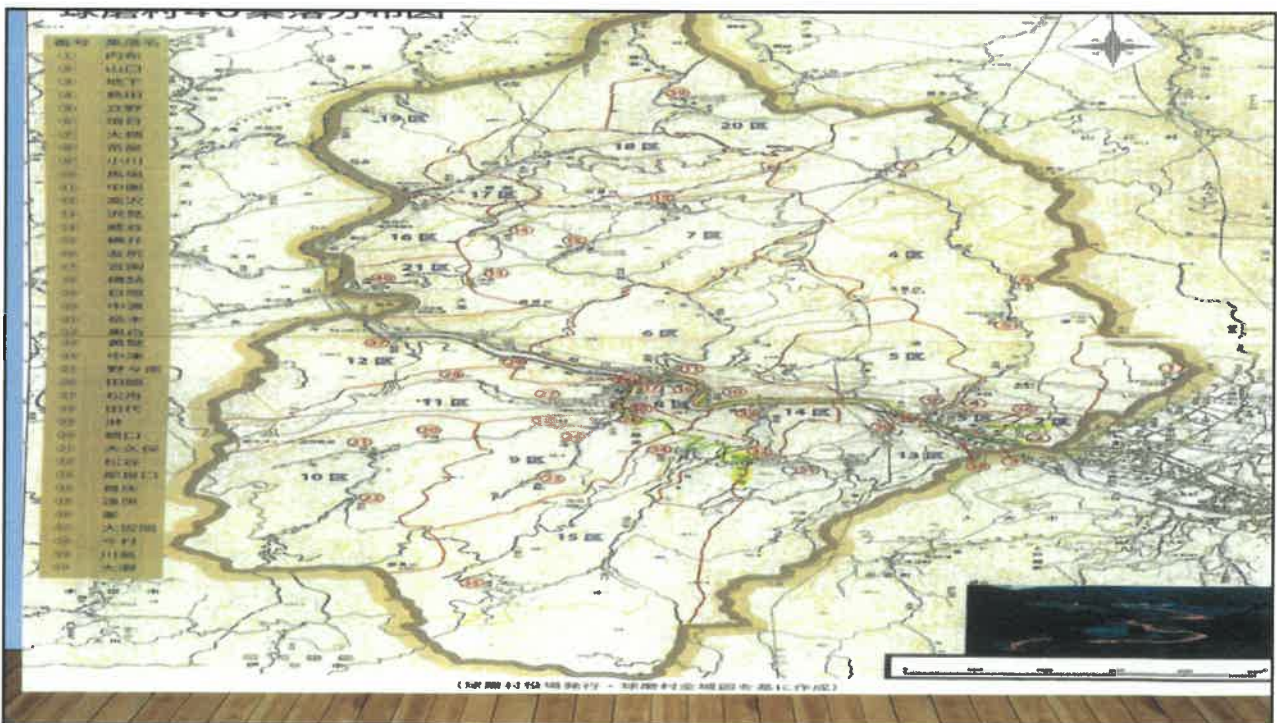
39



40



41



42



43

熊本豪雨災害	
令和2年	7月5日（日曜日）熊本豪雨災害発災
令和2年	7月6日（月曜日）人吉・球磨村現地訪問
令和2年	7月7日（火曜日）被災地（芦北水俣・人吉球磨・八代等）被災地の居宅介護支援事業所利用者の安否確認の指示 災害義援金の募集（7月7日～12月31日）
令和2年	7月8日（水曜日）日本介護支援専門員協会から厚生労働省振興課と今後の支援方法について調整スキーム作成
令和2年	7月10日（金曜日） <u>災害対策委員とボランティア募集</u> について協議熊本県庁及び厚生労働省への報告書類検討 実施要項作成
令和2年	7月11日（土曜日） <u>物資避難所へ搬送</u> （多良木・球磨村・八代）
令和2年	7月13日（月曜日）被災地状況の報告熊本県庁認知症対策・地域ケア推進課と連携
令和2年	7月15日（水曜日） <u>球磨村市役所より支援要請あり</u> <u>保健師協会とDMATと連携し球磨村全戸訪問調査</u> <u>地域包括支援センターのバックアップ支援</u>
令和2年	7月16日（木曜日）熊本県介護支援専門員協会 災害対策委員と支援者の募集を実施→日本介護支援専門員の支援→厚生労働省への報告、球磨村の災害対策本部（さくらドーム）でDMAT、DHEATと全戸訪問調査支援の調整依頼派遣人員調整開始
令和2年	7月18日～8月21日 全戸訪問調査資搬送熊本県介護支援専門員協会・DMAT・保健師協会）
令和2年	8月22日 芦北町地域包括ケアセンターより バックアップ支援依頼（人吉球磨支部） 避難所の福祉相談事業実施
令和2年	9月～12月 芦北町地域包括支援センター訪問調査実施

44

常に2～3名で行動

準備物

- 長靴・靴（足底に釘を通さないように工夫）
- ゴム手袋・マスク・消毒液・体温計・うがい用
水・ビニールのゴミ袋・帽子・所属が分かる
もの・飲料水
- 昼食（コロナ感染のため、仲間とおすそ分け
しない）
- 筆記用具
- 村や町の情報誌
- 実態調査用書類

45

DMAT・DHAT・JMAT・JCMAとの協働調査

46

熊本県介護支援専門員協会と保健師協会・DMAT
との訪問の打ち合わせの様子



支援チーム	支援期間	氏名(所属)	今日の活動
長崎DHEAT3隊	7/7~7/21		D. 熊本県 → せせがれ 熊本県 → 熊本物産館 PHN2 熊本県物産館
熊本県本部	予定	東 (PMW)	台帳整理
人吉HC	毎日1名	穂重 (PMV)	台帳
熊本県保C (DMATは未定)			熊本(20日)決定 週1の予定
DMAT	~7/26	De N.S. 熊本	全戸の訪問 → 全戸の訪問
日赤	~8/2		熊本県、熊本県
JMAT			
熊本DHEAT	~7/30		

47

橋がながされ、向いの山間部集落に移動ができない。
昔の山道を遠回りするしかない。



48



49

熊本県介護支援専門員協会と保健師協会・DM
A Tとの訪問の打ち合わせの様子

○在宅要援護者の観察のポイント

- 1.栄養士より→食事摂取内容（野菜や肉類はバランスよく食べられているか。（子ども・障害者児・高齢者）
- 2.衣食住でのニーズ・住環境の崩壊部分
- 3.睡眠・お薬の服薬・世帯構成員・年齢・職業・停電や水道・ガス等ライフラインの被災状況
- 4.その他



50



51



52

山間部の孤立した集落は、山水で生活水路に木材や土砂崩れの泥がたまり水が飲めない。

6か月経過しても洗濯ができない集落も！

認知症一人ぐらいの高齢者

障害の老人→村の人々で支え合う姿



53



54



55

上手くいかない事前準備

反省

道の崩落の為孤立した在宅避難者に情報を届けるため、情報誌を持って行くように前日打ち合わせていたが、準備ができておらず、朝のミーティング後、いざ出発する直前で印刷が始まった。

原因 なぜ、プロの集団でこんなことが？ どうして？ みんなイライラ！

56

「自己決定」を成立させる要素

- 見通しをたて、段取りを組む
- 優先順位を決める
- 実行に移し、最後までやり遂げる
- 適切にふり返し、記録に残しておく
- 率直に話し、偏りなく聴いて理解する

→ 災害で混乱が起きてこのプロセスに支障が生じると、判断することが困難になっていく

57

多職種と連携する時、信念対立が生まれやすい。
(常に連携する相手の気持ちに配慮して)

- どのような事を
- どの程度
- どのように行い
- 何を観察・評価するのか
- どうまとめ、誰に報告するのか
- 報告された相手は、混乱しないか
- 報告を受けた人は仕事が増えて、バンアウトしないか。助けは必要ないか。

58

どのような支援者のシフトが理想的か

- みなさんが支援者になる時に、
どのようなシフトの工夫をす
ることが、チームの和を乱さ
ず、効率的に被災地の支援を
出来ると思いますか？

59



60



61



62



63



64

職員が出動してこない！



施設の厨房設備・リハビリ機器・床・P C・記録類 全てが泥だらけ！全て使えない破棄
利用者情報全て流される。
事業は継続しないといけないし・清掃・修理・購入・・・経営のダメージ

65



災害発生

↓

専門職として何をしますか？

専門職としての私 自宅の子ども・家族

← どうする →

66



67

球磨村桜ドーム（防災センター）

- 新品のタオル2000枚
- 拭き用タオル
- マスク
- 手袋（ゴム）（プラスチック）
200個
- 洗濯洗剤300kg程度
- 石鹸・シャンプー20リットル入り
- 歯ブラシ・歯磨き粉100個
- 蚊取り線香100ケース
- 子ども用服
- 大人用下着・衣服etc



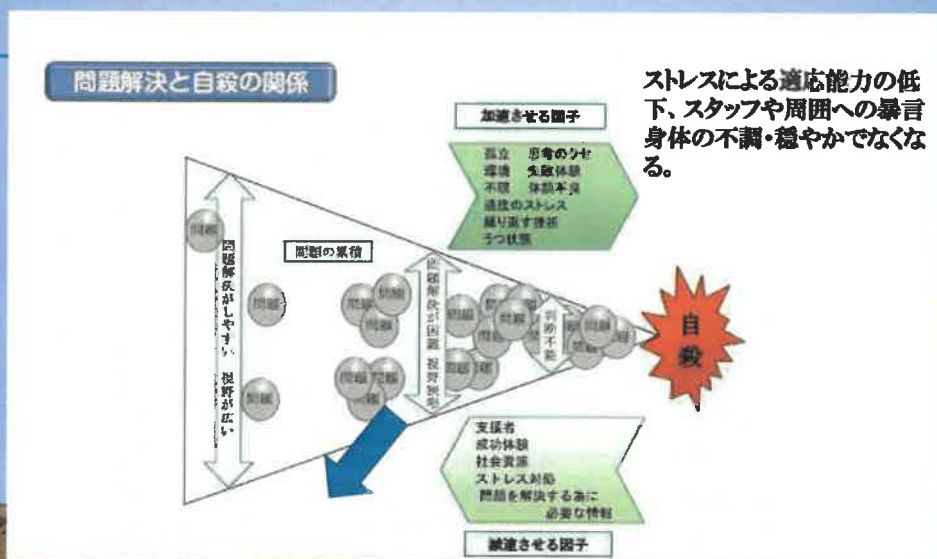
物資はあつまったけど、全部の住民
までとどかない？ みなさん良い方
法はありませんか？

68

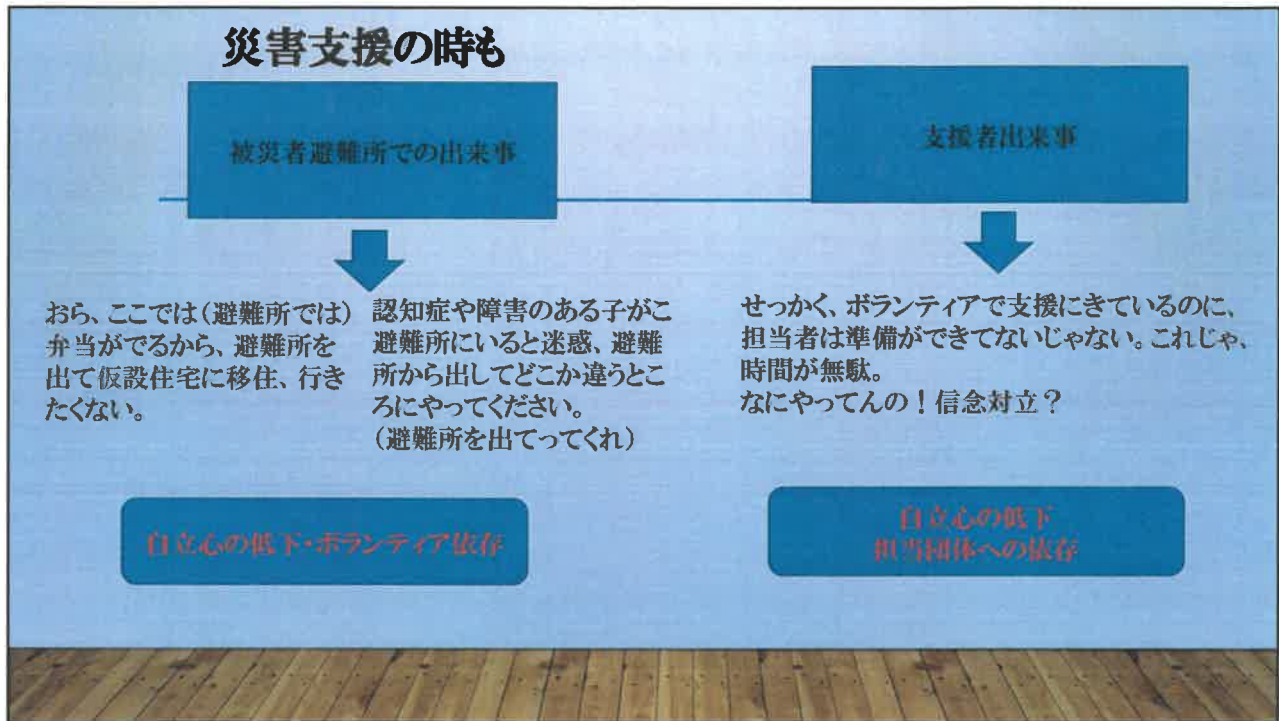


69

状況や環境によって自己決定が損なわれることもある



70



71

多様な問題を抱えて生活している
個人では処理できない問題ばかり

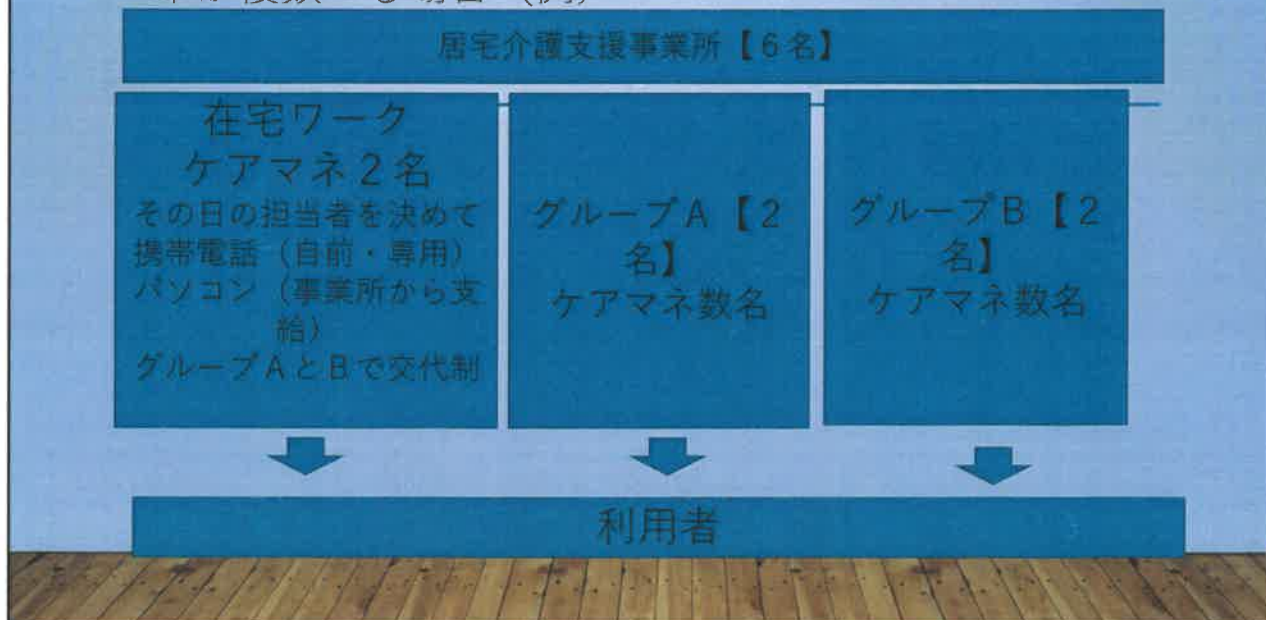
	
故郷を離れて違う場所で暮らす人が多く、過疎化が進行	災害ごみを処理場に出しに行くにも行き4時間帰り4時間 いつも往復30分もかからないのに

72

新型コロナ感染（今は第5類）の場合の居宅の対応の工夫事例

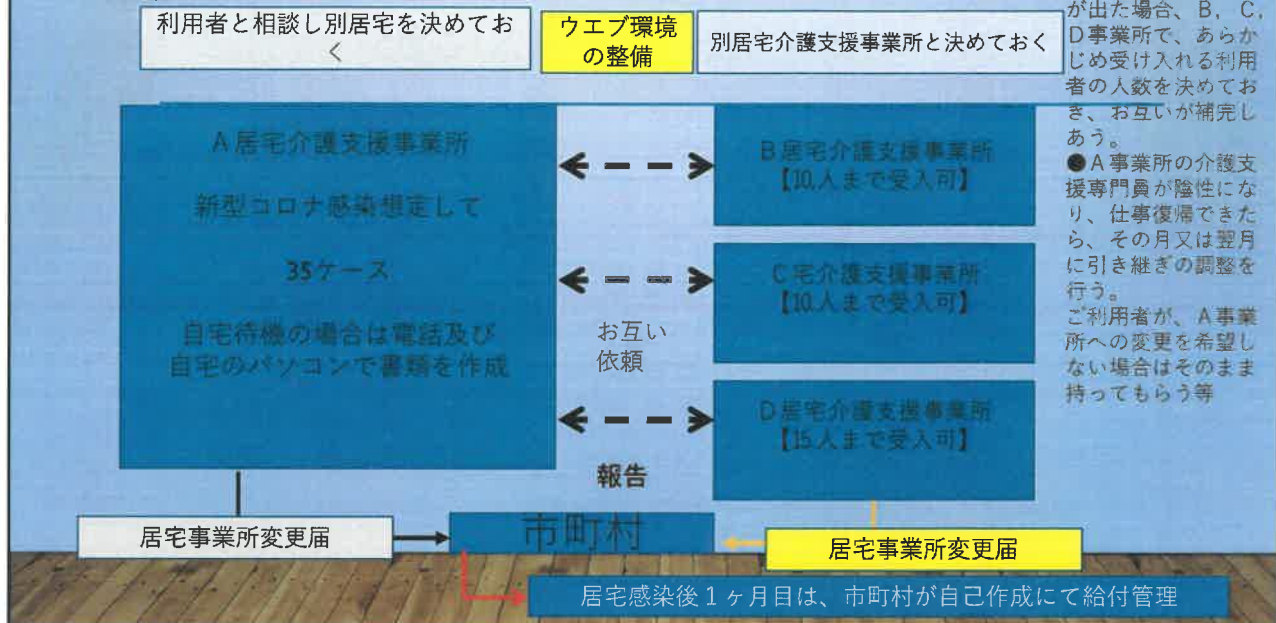
73

居宅介護支援事業所の工夫（大きな事業所：ケアマネが複数いる場合（例））



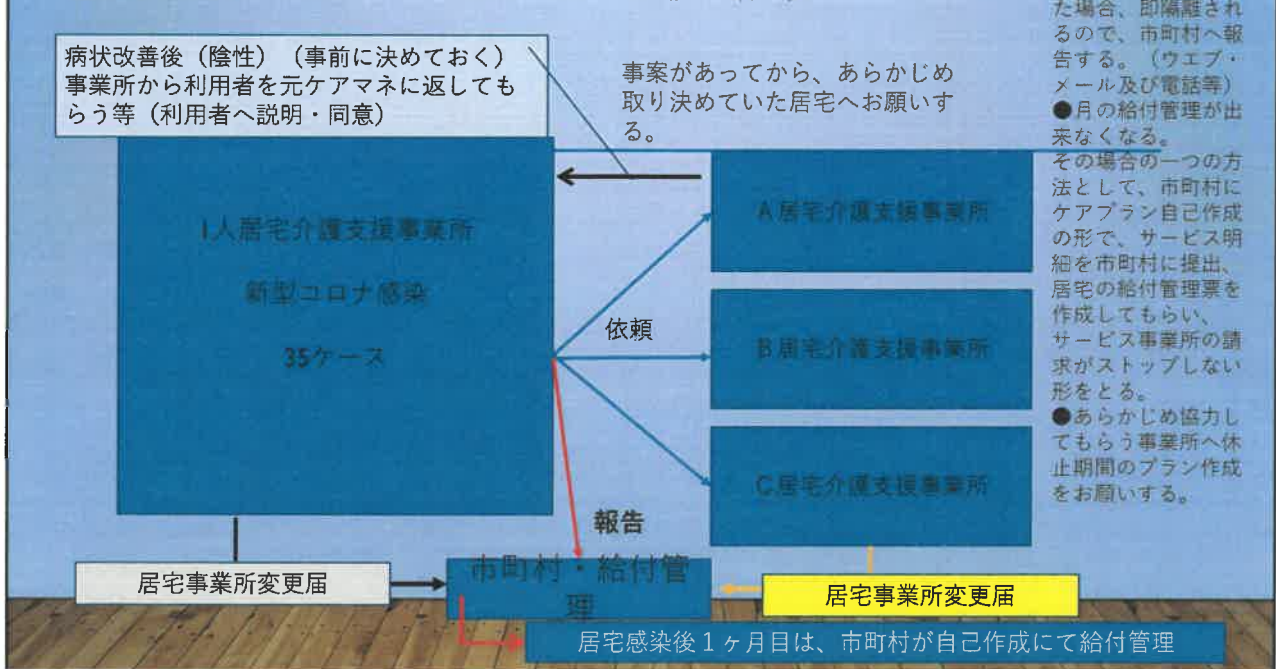
74

利用者と相談し事業所も事前に決めておくパターン (例)



75

感染後事業停止の為に別居宅に依頼（例）



76

多様な問題と連携の難しさ

混乱する状況の中で、多くの団体が関わり【市町村の指示・都道府県からの指示・住民からの苦情・民生委員さんとの関係・子ども・（不登校・教育・学校・子育て・受験等）・職能団体】食料・物資・避難所・親族の死亡・仮設住宅の手続き・住民からの再建の相談・夫婦の離婚・家族との離別・虐待（子ども・障がい者・高齢者）等多様な問題が地域包括支援センターに電話・面接・会議で議論され対応が混乱する。

緊急時の安否確認の対応の後、ソーシャルケースワークによる住民の声を聴くことは大切であるが、ニーズと言っても多様すぎてケアマネ等相談援助職だけでは対応が困難

市町村がかかえる具体的な問題を、各種団体で集まって報告し合い協議し、団体としてどんなことが可能か等の話し合いを2週間に1回程度実施した。

それぞれの専門家と一緒にあって支援していたはず、しかし閉塞感を感じることも・・・

77

活動地域	派遣 専門職員数	訪問実施世帯	関係支援機関につないだ 人数
球磨村・芦北町	113人（熊本県介護支援専門員協会会員）	1 2 8 7 世帯 （6 世帯転居）	779人
	不在世帯	自宅避難	地域の介護支援専門員
	1 7 4 世帯	1 1 0 7 世帯	地域包括支援センター 地域保健師

熊本豪雨災害における活動実績

78

今後実務の現場で行うべきこと

居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターが被災したときの連携体制（BCP計画と具体的な訓練の実施）

被災時の各市町村との連絡報告の仕方の工夫

市町村行政機能、災害対策本部の想定外の介護保険法上の対応

災害ボランティアの養成、派遣体制の整備

地域・都道府県・市町村との日頃のよい連携と援助関係を持つこと。

職能団体ごとに行う支援の明確化及び人員が足りない時の協力と連携（フェーズに応じた）の仕方

79

障害者・障害児（知的障害・精神障害・）子ども・認知介護・Wケア・生活困窮・医療依存が高い方・視覚障害等様々な立場に立った避難体制の準備と検討、避難所の在り方、支援の仕方、専門職の連携等インクルーシブな防災として考える必要がある。

- ①それぞれの状況にあった避難の仕方について、日頃から準備しておく
- ②自殺予防・孤立化の予防とADL低下予防の工夫や対応・相談・教育
- ③病院受診方法や服薬がない、流された等命に係わる問題の対応
- ④支援後の市町村の仕事量の増大に対するフォローの対応
- ⑤しょうがいを持つ人の意見をこのような会議に反映させ、当事者の立場から支援の方法を考えること。

80

- 1.連携型BCPはまず生命を守ること
- 2.そして、生活を支える手助けを行い

災害のフェイズ
に応じた対応が
必要になる。

- 3.じわじわと押し寄せる不安を地域・専門職と連携し不安に答える
(収入の途絶と支出の膨張を伴う生活リスク)



生命
生活
不安

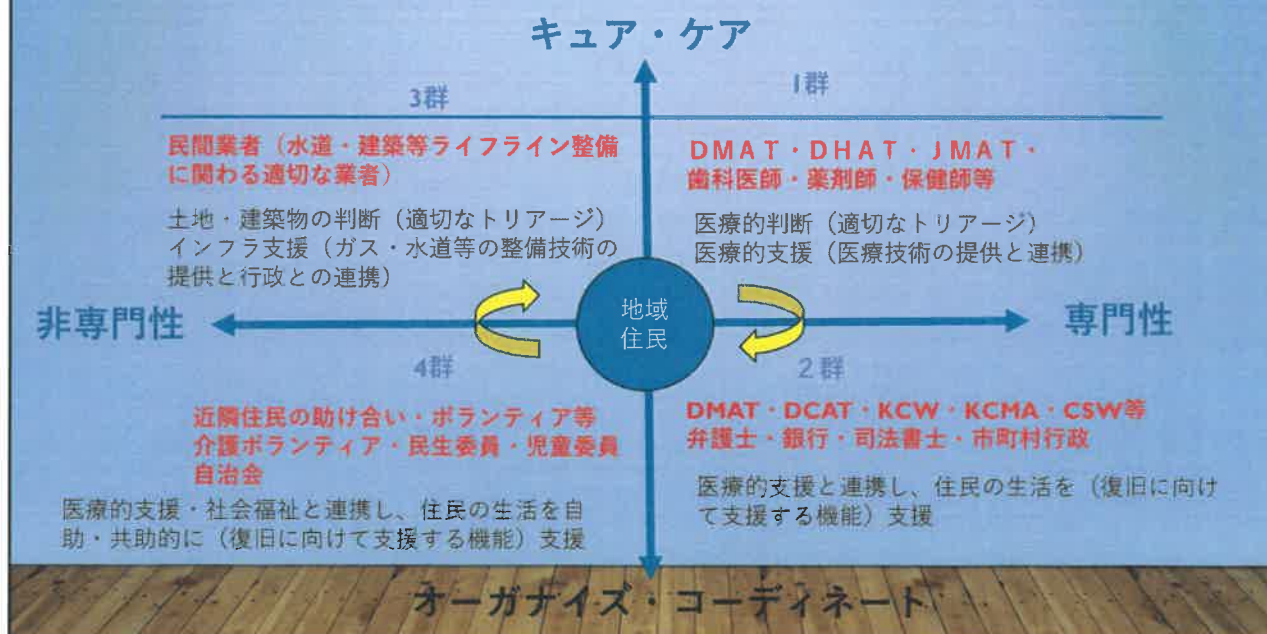
災害から避難して命は助かった。

仕事場が被災し、仕事ができなくなった。貯金を取り崩しながら、要介護の自分の両親と要介護の叔母3人を一人で介護している。

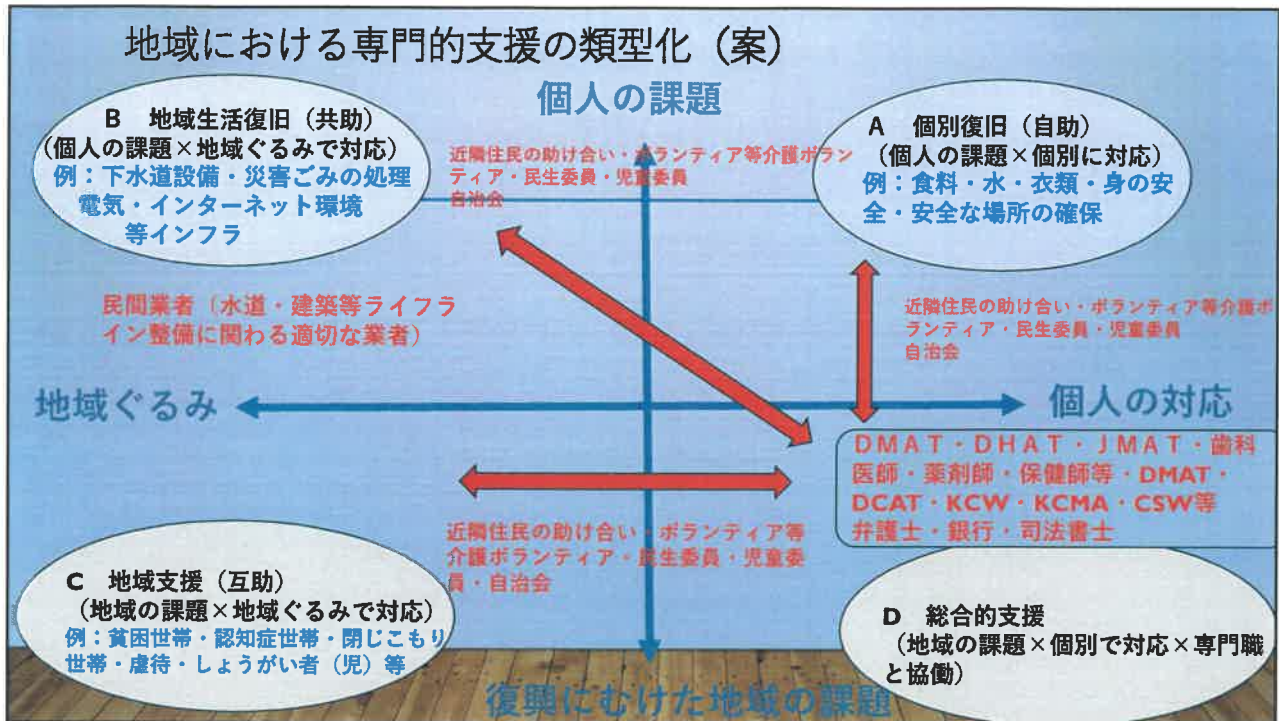
生活保護の相談を役場にしても、認めてくれない。今後、仕事や介護どうしていいかわからない。生活の目的が経たない。

81

連携型BCPの担い手と連携のイメージ (案)



82



83



ご清聴ありがとうございました。

災害支援に関わって学んだこと！

日頃から、地域の居宅介護支援事業所との情報交換や連携等を密にしたり、いざとなった時は、（災害の時）は地域の住民の方又は地域の企業（不動産業・銀行・土建業・商工会議所・農協等）と日頃から関係を構築しておくことは非常に重要（いざとなったとき、行政は助けられないことが多かった。）行政にたよるのではなく、行政はなにもしてくれないではなく、自ら行政と共に地域や地域住民に対して何ができるのかを考えることが大事だと思う。

職場でも、職場が何もしてくれないではなく、自分たちが職場に何ができるのか、利用者に何ができるのか、専門職として地域に何ができるのか、誰のための専門職なのか（専門職とは住民の為に働く仕事）自分の立場（ポジショニング）を日ごろから意識しながら就労し、同僚と日頃から会話をし、助け合うことが、災害という非常事態に生きてくる。

84